

United Nations Global Compact
United Nations
New York, NY 10017
United States of America

Seigakuin University & Schools
SEIG

July 10, 2019

UN Global Compact Communication on Engagement

この書面により、学校法人聖学院は、国連グローバル・コンパクトが掲げる10原則および、SDGs達成に向けての推進活動に賛同し、「神を仰ぎ 人に仕う」という当学校法人の教育理念に基づいた活動の実践によって、グローバル・コンパクトの支援となる活動を継続して行っていくことを表明します。私たち学校法人聖学院のSDGs推進に向けての考え方と活動実績は、今年(2019年)6月に発行したASF NEWS 57号において明示させていただきました。資料として添付しましたのでご参照ください。

With this letter, Seigakuin University & Schools agrees to the Ten Principles of the United Nations Global Compact and promotional activities toward achieving the SDGs and expresses our intention to continue to carry out activities that support the Global Compact by practicing activities based on our educational philosophy of "Love God and Serve His People."

We expressed our ideas and list of past activities as Seigakuin University & Schools toward promoting the SDGs in the 57th issue of ASF NEWS, issued in June of this year (2019). Please refer to the attached document to read it.

学校法人聖学院は昨年（2018年）に策定した長期ビジョンにおいて、「誰一人取り残さない」世界を目指すことを宣言いたしました。学校法人聖学院は幼稚園、小学校、中学校、高等学校、大学、大学院を擁するキリスト教主義の学校法人です。それぞれの学校の発達段階に応じて、相応しい「誰一人取り残さない」世界を目指す実践を行っております。私たちは、世界中の人々と協力をして、持続的な未来を描いていくためには、教育の力が大きいことを自覚しています。また、教育はもちろんのこと、聖学院の各校の資源を活用し、地域の課題解決に貢献できることがあると考えています。

Seigakuin University & Schools vowed to aim for a world where "No one will be left behind" through our long-term vision, formulated last year (2018).

Seigakuin University & Schools is a Christian educational corporation that has a preschool, elementary school, junior high school, high school, university, and graduate school. At each level of educational development, our practice is consistent with our vision for a world where "No one will be left behind."

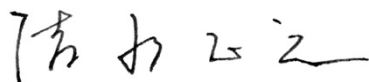
In order to work with people around the world to shape a sustainable future, we are aware of the significant power of education.

In addition to education, we believe that we can utilize each of Seigakuin's schools' resources to contribute toward resolving regional issues.

神から与えられた私たち聖学院が、学校法人としての社会的責任とその能力に期待されることにおいて、地域に、日本に、世界に、地球に、未来に対して貢献することを誓い、国連グローバル・コンパクトへの宣言といたします。

We, as Seigakuin, blessed and provided for by God, have a social responsibility as an educational corporation, relied upon for our abilities, vow to contribute toward the future of the region, Japan, the world, and the Earth, and declare allegiance to the United Nations Global Compact.

Cordially submitted



Masayuki Shimizu
Chair
Seigakuin University&Schools

国連グローバル・コンパクトの活動を促進する本法人の活動報告 Description Of The Practical Actions (2018年4月～2019年6月末)

1. 学校法人 聖学院

【2018】

◇国連グローバル・コンパクト（以下UNGC）へ署名、
およびグローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン（以下GCNJ）への加入
4月19日（木）本法人のUNGCへの署名が承認され、GCNJへ加入しました。
プレスリリース配信（4/25）

◇SEIG VISION（聖学院ビジョン）へのSDGsの掲載
本法人は学院創立120周年を迎える2023年に向けて、長期ビジョンの策定および、
中期経営アクションプランの策定を行いました。そのキーメッセージとして『将来の日本および
国際社会に貢献する人間を育成』『「誰一人取り残さない」世界の実現を目指して』を掲げ、
SDGsの目指す方向との一致を確認し、6月に発行した、SEIG VISION REPORT（聖学院ビジョ
ンレポート）へ掲載しました。

◇会議等

①ASF(All Seigakuin Fellowship)総会

日時：6月28日（木）17:00～19:00 開催場所：聖学院小学校
対象者・参加者：ASF推進委員63名
内容：「聖学院ビジョン、およびSDGsの説明」（理事長 清水 正之）

②夏期特別理事会

日時：7月23日（月）13:00～16:00 開催場所：聖学院駒込新館 2F
対象者・参加者：理事
内容：「中長期計画について」(理事長 清水 正之)、「SDGsについて」(職員 萩野 紀之)、
「学校現場におけるLGBT」(講師 館野 聡子氏)



ASF総会



夏期特別理事会



◇広報

①4月以降のプレスリリースは内容と関連するSDGsのゴールを掲載

②11月、学校法人 聖学院のホームページリニューアルを行いました。

トップページ画像にSDGsのアイコンを掲載。

また、社会貢献ページ（ボランティア、地域連携活動、生涯学習）では関連のあるコンテンツにSDGsのアイコンを掲載。



◇イベント等

①記者発表会（大学創立30周年、ビジョン策定、グローバル・コンパクト署名・加入報告）

日時：6月19日（火）14：00～15：00 開催場所：聖学院大学教授会室

参加者：マスコミ関係各社、高校教員19名、学内関係者（教職員、学生）8名、合計27名

内容：「聖学院大学30年の歩み、これから迎える学校法人聖学院120年」(学長 清水 正之)

「グローバル・コンパクトへの署名、加入の意図のご説明」(学長補佐 渡辺 正人)

「ボランティア活動支援センター 学生活動報告」(ムーミンの会、STEP、聖学院大学防犯ボランティアチームSTOP!代表者)



記者発表会

【2019年】

◇会議等

①ASF総会

日時：6月27日（木）15:00～19:00 開催場所：聖学院中学校・高等学校

参加者：ASF推進委員60名

内容：「誰一人取り残さない世界を目指すために」（理事長 清水 正之）、
グループディスカッション「学院創立120周年にむけて」

②夏期特別理事会（予定）

日時：7月22日（月）13:00～16:00 開催場所：聖学院駒込新館 2F

参加者：理事

内容：社労士による講演「働き方改革について」、
「パラスポーツに見る聖学院教育」（女子聖学院中高 加納教諭、聖学院中高 児浦教諭）



ASF総会

◇広報活動・その他

①GCNJ、IGESが2月に発行したSDGs調査レポート「主流化に向かうSDGsとビジネス～日本における企業・団体の取組み現場から～」理事長 清水 正之の取材協力

②学院広報誌「NEWS LETTER 3月号」（3/20発行）にてダイバーシティ特集

③聖学院関係者対象広報誌「ASF NEWS 57号」（6/20発行）にてSDGs特集



SDGs調査レポート

2. 女子聖学院中学校・高等学校

【2018年】

◇授業

①中学2年生対象 社会 歴史を振り返りながらSDGsを学ぶ（12/17）
冊子「未来を変える目標SDGsアイデアブック」を活用（冊子提供、一般社団法人シンク・ジ・アース）

◇課外活動・プロジェクト

①パラスポーツ応援プロジェクト（聖学院中高合同プロジェクト）
プロジェクト始動、パラスポーツ紹介動画作成、パラスポーツ体験会、
パラバドミントン国際大会応援（9/30）他

【2019年】

◇授業

①中学2年生対象 SDGs学習「貿易ゲーム2030」実施、
NPO法人 未来をつかむスタディーズ（みらスタ）協力（1/23）

②中学2年生対象 SDGs学習「レゴを用いたSDGsについてのワークショップ」
こども国連環境会議推進協会 (JUNEC) 協力(4/17)

③中学2年生対象 SDGs学習「SDGsフォトコンテスト」121名 応募総数63点から3点の優秀作品を表彰 (表彰式 6/5)



貿易ゲーム



レゴを用いたワークショップ



SDGsフォトコンテスト

◇課外活動・プロジェクト

①パラスポーツ応援プロジェクト (聖学院中高合同プロジェクト)
プロジェクト3rdステージ、高齢者施設でボッチャ大会開催、新しい学びフェスタ (3/21 ベネッセ主催) 参加、文化放送ラジオ「ニュースワイドSAKIDORI」出演 (3/26)



新しい学びフェスタ

3. 聖学院中学校・高等学校

【2018年】

◇授業

①社会科 対象：中学生 中3社会科 (公民科) 「社会課題とは何か」
「SDGsゲーム (5/11 (株)チームイノベーション協力)」

②総合学習 ソーシャルデザイン 対象：高校1年生 ソーシャルデザインキャンプ (5/21～23)、ソーシャルデザイン・ウィーク (7月)

③思考力Lab(ラボ) 対象：中学Advanced Class生徒、土曜午後開催 (年間15回)
・「レゴを用いたSDGsについてのワークショップ」 こども国連環境会議推進協会 (JUNEC) 協力 (7/20)
・「貿易ゲーム2030」NPO法人 未来をつかむスタディーズ (みらスタ) 協力
・「SDGsアクション」フリー・ザ・チルドレン協力

④タイ海外研修旅行 対象：中3～高2の希望者より選抜 参加者37名 (12/19～31)

⑤SDGsメディアラボ 対象：中2～高2

◇課外活動・プロジェクト

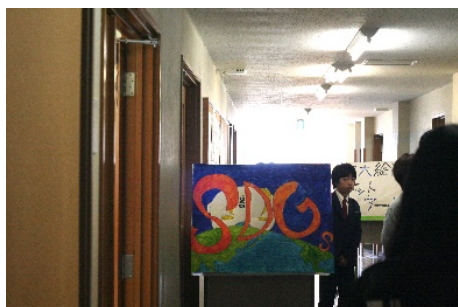
①パラスポーツ応援プロジェクト(女子聖学院中高合同企画)※女子聖学院中高の記載参照

②聖学院みつばちプロジェクト

高校生ビジネスプラン・グランプリ出場（日本政策金融公庫主催）、2日間だけの高校生カフェ出店（8/25、26日本政策金融公庫主催）他

◇記念祭（文化祭）

11月2日（金）、3日（土・祝）



中学1年「SDGs～世界の幸せのために私たちができること～」



中学2年「SDGsイベント&展示コーナー」SDGsステッカーづくり、糸魚川の読書アドバイザーでSDGsの関連から図書を紹介する活動をしている朝日仁美さんの読み聞かせワークなど



パラスポーツ体験会（パラスポーツ応援プロジェクト）
フォトメディア探究部「SDGsフォトコンテスト」

釜石ボランティアの発表

中学3年「糸魚川応援ブックカフェ」

聖学院の海外研修旅行レポート「タイ研修旅行」パネル展示他

【2019年】

◇授業

①社会科 対象：中学生

②総合学習 ソーシャルデザイン 対象：高校1年生 ソーシャルデザインキャンプ (5/20～22)、ソーシャルデザイン・ウィーク (7月)

③思考力Lab(ラボ) 対象：中学Advanced Class生徒、土曜午後開催 (年間15回)

- ・「レゴを用いたSDGsについてのワークショップ」
こども国連環境会議推進協会 (JUNEC) 協力
- ・「貿易ゲーム2030」NPO法人 未来をつかむスタディーズ (みらスタ) 協力
- ・「SDGsアクション」フリー・ザ・チルドレン協力

④SDGsメディアラボ 対象：中2～高2

◇課外活動・プロジェクト

①パラスポーツ応援プロジェクト(女子聖学院中高合同企画)※女子聖学院中高の記載参照

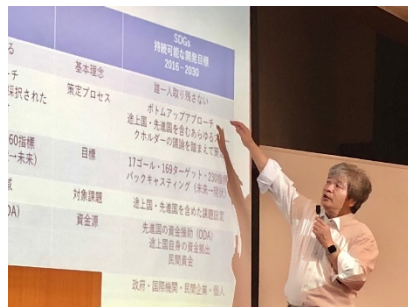
②聖学院みつばちプロジェクト

4. 聖学院大学

【2018年】

◇授業

「平和学」、「民俗環境論」、「旅行業界論」他



授業「民俗環境論」

◇公開講座・シンポジウム

①政治経済学部30周年記念 公開講演会

「多様性 (ダイバーシティ) にかかれた社会をめざして～いくつもの分断を超えて」

報道の現場から：女性記者に聞く

「平成30年間の日本政治を斬る—テレビ・新聞の報道現場から」

(6/27 講師：小塚 かおる氏/日刊現代ニュース編集部長)

「現代日本の少年犯罪と子どもの貧困の現実—取材現場から見てきたもの」

(7/18講師：山寺 香氏/毎日新聞さいたま支局記者)

「時代の正体—取材現場から見た国家権力」(10/24講師：松島 佳子氏/神奈川新聞湘南支局記者)

「新聞記者の仕事—取材の現場から」(11/7講師：望月 衣塑子氏/東京新聞社会部記者)



◇課外活動・プロジェクト

①ボランティア活動支援センター主催勉強会

ハンセン病勉強会(7/29)

ハンセン病施設見学会(8/29)

学生ボランティア団体対象SDGs勉強会 (9/21)



◇ヴェリタス祭 (学園祭)

①「こども虐待防止オレンジリボン運動支援企画『私を支えてくれたあなたへ』という参加型ボード展示企画」を実施

②empower (学生団体) によるフェアトレード商品の販売

③防犯パトロールSTOP! (学生団体) による子ども企画実施 他

◇外部イベント・コンテスト等参加

①「あげおワールドフェア」 (10/14) へフェアトレード活動学生団体empowerが出店

◇広報・その他

①WEBサイト「聖学院大学研究者図鑑」への関連SDGsアイコンの表記
<https://www.seigakuin-researchers.jp/>



【2019年】

◇会議等

①教職員対象新年研修会

対象：専任教職員 約200名 日時：1月14日（月・祝）10:00～15:00

会場：聖学院大学チャペル他

内容：講演「SDGsとは何かーその経緯、背景、及び意義」

（講師：毛利 勝彦教授 国際基督教大学）、「SDGsについてのグループ協議」



毛利 勝彦教授 講演

◇授業

「国際機構論」、 「平和学」、 オムニバス授業「社会への扉を開く」 他



授業「国際機構論」

◇課外活動・プロジェクト

①聖学院大学ボランティア活動支援センターが冊子を発行

2018年9月の勉強会をきっかけとして、「ボランティア／市民活動と持続可能な世界（SDGs）」（A4判24ページ）をNPO法人エコ・コミュニケーションセンターの協力のもと2月に発行しました。

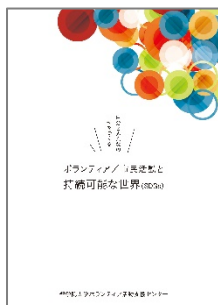
②公開審査会&ドネーションパーティ

日時：6月15日（土）13:30～ 場所：聖学院大学1号館1Cafe

参加者：聖学院大学同窓会、聖学院大学ボランティア活動支援センター、地域連携・教育センター、

学生団体、教職員他

内容：学生団体の活動内容によって支援の金額を決める公開プレゼンテーション大会



ブックレット



ドネーションパーティ

◇外部イベント・コンテスト等参加

①学生によるオレンジリボン運動全国大会出場（2/19）

学園祭で取り組んだ「こども虐待防止オレンジリボン運動支援企画『私を支えてくれたあなたへ』という参加型ボード展示企画」について発表

<http://www.orangeribbon.jp/info/npo/2019/02/217.php>

◇広報活動、その他

①聖学院大学図書館にSDGs展示コーナーを設置(2019.1～)



本法人の活動成果の報告

Measurement Of Outcomes

1. 学校法人 聖学院

【制作物】

①学院広報誌 NEWS LETTER No.273(3月号)

判型：A4判16頁 発行部数：約10,000部 送付対象：在校生徒・学生、教職員、キリスト教連盟学校、教会他 発行日：2019年3月20日

特集テーマ：ダイバーシティ社会の聖学院教育

&Talk 教育と多様性 伊藤 豊（聖学院中高教諭）×八木 規子（聖学院大学政治経済学部准教授）×ドリス・アワンドゥ・アウィノ（人間福祉学部3年、ケニアのマゴソスクール出身）

国際交流プログラム「Japan Trip」（聖学院小学校）、国際理解教育（女子聖学院中高）、タイ研修旅行（聖学院中高）、外国につながる子どもたちと児童学（聖学院大学）他

②学院・卒業生対象広報誌 ASF NEWS No.57（6月号）

判型：A4判36頁 発行部数：約50,000部 送付対象：各校卒業生、在校生徒・学生、教職員、キリスト教連盟学校、教会他 発行日：2019年6月20日

特集テーマ：聖学院とSDGs

&Talk SDGs対談 渡辺 正人（聖学院大学基礎総合教育部教授）×佐藤 光敏氏（上尾市職員）、加納 由美子（女子聖学院中高教諭）×児浦 良裕（聖学院中高教諭）

チャイルドサポーター制度（聖学院小学校）、コミュニケーション英語（女子聖学院中高）、ソーシャルデザインキャンプ（聖学院中高）、産官学連携+SDGs推進+ダイバーシティ推進プロジェクト（聖学院大学）他



2. 学校別の成果

【女子聖学院中学校・高等学校】

①パラスポーツ応援プロジェクト（聖学院中高合同プロジェクト）が3rdステージを迎えて、生徒の自発的なアイデアにより、高齢者施設でのボッチャの体験会などを実施しています。また、SNSではパラスポーツの紹介（パラクライミング）を掲載しています。

<https://www.facebook.com/parasports.jsg.seig/>

②中学2年生を対象としたSDGsの学習の成果

「レゴを用いたSDGsについてのワークショップ」（こども国連環境会議推進協会協力2019 4/17実施)等を経て、「SDGs フォトコンテスト」を開催。中学2年生（生徒数121名）の63名が作品を応募。3点の優秀作品を表彰しました。

③SDGsプロジェクト委員会を発足

学校内でのSDGsによる学びの提供の体系化のため、SDGsプロジェクト委員会を発足しました。

【聖学院中学校・高等学校】

①パラスポーツ応援プロジェクト※女子聖学院中高参照

②生徒の活動の活性化

ASF NEWS No.57の「在校生の活躍」ページにも一例を掲載していますが（※下記参照）、聖学院中高での授業や課外活動に影響を受けて、自発的にSDGsを推進する団体（学校内、および学外）を立ち上げる生徒が現れ、積極的な活動を行っています。

※「在校生の活躍」

聖学院中学校・高等学校ではSDGs推進の要素を備えた授業や課外活動が多く実施されています。その効果があって、2018年の記念祭（聖学院中高の文化祭）ではSDGsをテーマとしたいくつかの展示や企画がありました。その中の一つ、中2の教室でSDGsの展示企画を行っていたのが五十嵐さんと山口さんです。二人はたいへん仲良しですが、現在はそれぞれがリーダーとしてSDGsを推進する別々の団体の活動を行っています。五十嵐さんは「学生団体Future」という団体を他校の高校生たちと立ち上げて、募金活動をしたり、SDGs関連のワークショップを実施したりしています。今年の夏には都内で大きなイベントを開催する予定で、正式に決定したらホームページで紹介するのでぜひチェックしてくださいとのことでした。山口さんは複数の団体でアクティブに行動しています。聖学院の生徒会に所属しており、学内にステッカーを貼ってSDGsを紹介する企画の実施を計画している他、SDGsアクションを技術面からサポートする学生団体「SustainableGame」、ワークショップの実施を主な活動とする「スクールSDGsプロジェクト」、そして中学生が参加できるイベント情報の提供を行うフェイスブックグループ「SDGs Network U-18」といった団体のリーダーとして活躍しています。山口さんは五十嵐さんたちと、以前に「東京公共交通オープンデータチャレンジ」というアプリ開発のコンテストで東日本旅客鉄道賞を受賞していますが、その受賞作となったアプリ「Smooth Transfers」の商品化も目指しているそうです。二人の今後の益々の活躍が楽しみです。

【聖学院大学】

①ダイバーシティ、人権に関する連続公開講演会を開催し、多くの地域の皆さまにご参加いただきました。

「多様性（ダイバーシティ）に開かれた社会をめざして～いくつもの分断を超えて」
報道の現場から：女性記者に聞く

2018年6月27日(水)開催「平成30年間の日本政治を斬る—テレビ・新聞の報道現場から」（講師：小塚かおる氏/日刊現代ニュース編集部長）

聴講者：学生91名、教職員9名、一般9名 合計109名

2018年7月18日(水)開催「現代日本の少年犯罪と子どもの貧困の現実—取材現場から見てきたもの」（講師：山寺 香氏/毎日新聞さいたま支局記者）

聴講者：学生112名、教職員17名、一般12名 合計141名

2018年10月24日(水)開催「時代の正体—取材現場から見た国家権力」（講師：松島 佳子氏/神奈川新聞湘南支局記者）

聴講者：学生47名、教職員11名、一般1名 合計59名

2018年11月7日(水)開催「新聞記者の仕事—取材の現場から」(講師:望月 衣塑子氏/東京新聞社会部記者)

聴講者:学生40名、教職員12名、一般27名 約79名

②産官学連携+SDGs推進+ダイバーシティ推進プロジェクトの発足

今までの大学の活動を振り返り、リソースを点検し「産官学連携+SDGs推進+ダイバーシティ推進プロジェクト」の活動を開始しました。公開講演会の開催や地域の企業や行政と連携した活動を計画中です。

③ボランティア活動支援センターがブックレット「ボランティア/市民活動と持続可能な世界(SDGs)」(A4判24ページ)を発行しました。聖学院大学ボランティア活動支援センターおよび、制作にご協力をいただいたNPO法人エコ・コミュニケーションセンターが主催するワークショップなどで使用される他、ご要望があった高等学校に無料で配付しています。

④ボランティア活動を行う学生団体へのSDGs周知の成果

2018年6月19日(火)の記者発表会での学生の発表以降、ボランティア活動支援センター主催の勉強会に参加するなどして、SDGsを理解しています。2019年6月15日(土)に開催された公開審査会&ドネーションパーティーでは、学生の行うボランティア活動の内容とSDGsの目標との関係をアイコンで表記したプレゼンテーションが行われました。(復興支援ボランティアチームSAVE、Heart&Smie、防災戦隊マモルンジャー、バッファローあげお、こども・あそびラボ、児童文化研究同好会てふてふ、パワフルキッズ、若者の就労支援ネットワークムーミンの会、聖学院大学ボランティアアソシエーション・GRACE、Unity、聖学院大学防犯ボランティアチームSTOP!、empower、アッピー応援隊、キッズかけっこ教室、チーム釜フェス 以上15団体参加)

3. 認知度調査実施の計画

学校法人聖学院が自身の進むべき方向性とSDGsの目標が一致していることから、その活動を推奨する意思の表明としてグローバル・コンパクトに署名・加入して以来、学内外に対して情報の公開を行ってまいりました。

2019年1月の聖学院大学の新年研修では、全教職員を対象として講演の聴講、グループ討議を行ったことで、誰もがSDGsについて理解するに至りました。

また、活動報告に記載したような、授業や課外活動・プロジェクトを通じてのSDGs推進の活動を行ってきており、中高の生徒、大学の学生、あるいは小学校の児童への認知度が高まっている実感があります。

については学校法人聖学院の教職員、女子聖学院中高および聖学院中高の生徒、聖学院大学の学生、聖学院大学院生に対して、計画的に経年的な認知度調査を、毎年一定の時期に実施していくことを計画しております。